

# インクルーシブ教育時代と ろう教育

ろう教育研究部  
大鹿 綾

## ごあいさつ

2

今年度からろう教育研究部の部長を務めることになりました、大鹿 綾(おおしか あや) と申します。

東京学芸大学教育学部で、将来ろう学校の教員になりたい学生たちを育てています。

鳥越先生、武居先生から引き継がせていただきます。

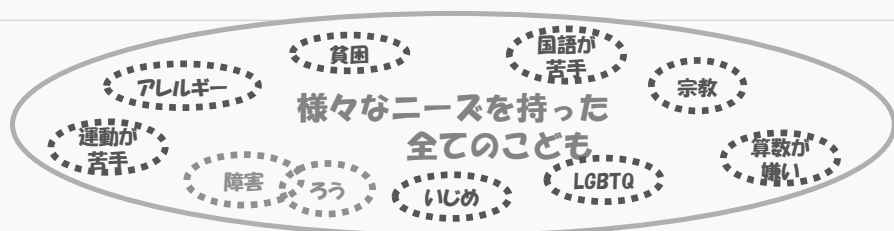
力不足ではありますが、どうぞよろしくお願い致します！



## インクルーシブ教育

3

「全ての子どもがユニークな性格・興味・能力と、教育的ニーズを持っている」(サマソカ宣言,1994)  
「障害児」と「健常児」をそもそも分けない  
共に学ぶことを目指す



## 障害者権利条約と勧告

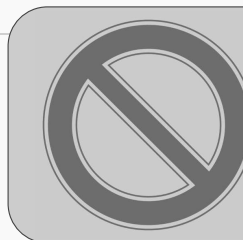
4

障害者権利条約（2006）：私たちのことを私たち抜きで決めないで」

日本は2014年に批准

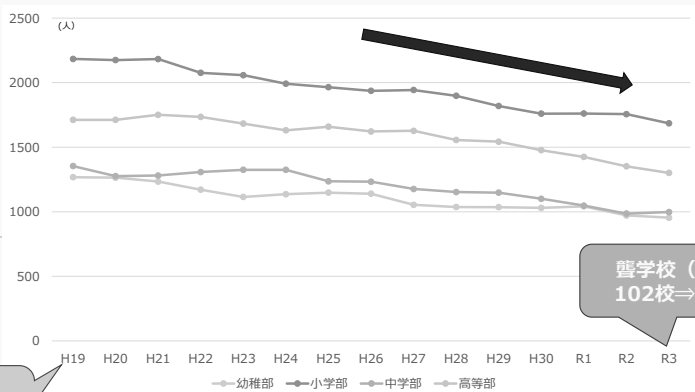
→2022年 権利委員会による審査、勧告

あれ…  
ろう学校は…？



- ・分離教育（「障害のある子」だけを集めた学校や教室）の否定
- ・通常の学校への入学拒否への私的
- ・ろう、盲ろう児との意思疎通手段不足

## ろう学校も、通うこどもも、減っている <sup>5</sup>



H19 (2007)  
特殊教育  
→特別支援教育へ

## 近年のろう学校の課題

- ・子どもの数の減少 ←インクルーシブ教育により、通常の学校での受け入れ増（難聴学級等の立ち上げはあっても、専門性のある教員が就くとは限らない）
- ・手話を使う子、人工内耳や補聴器を活用して音声も使う子、重複障害のある子… 一つの教室に多様な子が存在
- ・教員の異動などによる専門性の継承困難

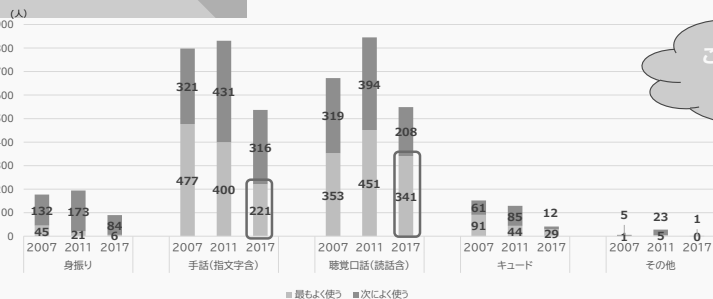
## ろう学校の中での「共通言語」は？ <sup>7</sup>

- ・ろう学校在籍児の中でも人工内耳装用児は3人に一人以上
- ・学校の中でよく使うコミュニケーション手段 ①聴覚口話 ②手話が多い
- ⇔ 多様な子どもたちが集まる中での「共通言語」はやはり手話

この「手話」ってどんなもの  
なんだろう…？

CI装用児率

2007年 14.9%  
2011年 26.9%  
2017年 36.8%



ろう学校通常学級在籍児の良く使うコミュニケーション手段

## 今後の研究テーマ

ろう学校で先生と子どもたちが「通じ合う」  
ための手話とは何か？  
それを身に着けるためにはどのような研修が  
効果的か？

## 子どもと「通じ合う」ための手話とは？

- ・大人向けの手話 ≠ 子ども向けの手話 …？
- ・手話単語の違いだけでなく、伝え方にも工夫が必要なのではないか？
- ・ろう学校内での手話研修をろう教員が担うことは多い
  - ⇔ 若いうちの教員の中には不安を感じている者も…

### 【今後の研究計画】

- ・ろう学校での手話研修の実態調査
- ・講師をしている場合に感じる困難は？
  - ・子ども向けの手話とは？
- ・ろう学校教員に求められる、子どもと「通じ合う」ための力とは？
  - ⇒教材開発していきたい！